

Who we are

ナガサキ・ユース代表団に関する7つの質問

Q1. ナガサキ・ユース代表団って何？

A1. 長崎県、長崎市、長崎大学の3者が構成する「核兵器廃絶長崎連絡協議会」(PCU-NC)が主催する人材育成プロジェクトです。2013年に第1期生の活動が始まりました。核軍縮・不拡散問題に関する国際会議への参加とその事前事後の活動を通じて、次世代を担う長崎の若者が、この分野で活躍する世界の人々と出会い、最新の国際情勢を学ぶとともに、知識を行動に結びつける力を養うことをめざしています。

2014年度は、公募で選ばれた8名の長崎の大学生がニューヨークの国連本部で開催された「2015年核不拡散条約(NPT)再検討会議第3回準備委員会」(右ページ囲み参照)に参加しました。

Q3. 費用は誰が負担するの？

A3. 国際会議への参加にかかる旅費・滞在費として、一人あたり一律20万円を支給します。航空券・宿泊先は各自で手配します。不足分が出た場合は個人負担となります。

Q2. 誰が応募できるの？

A2. 募集対象は、長崎県内に在住・在学・在勤の大学生・院生、および同程度の年齢の若者です(18~25歳を目安)。高校生(応募時)は不可。国籍は問いません。核兵器問題に関心があり、事前の学習や現地での活動を通して、この分野での知識・経験を得たいと希望する若者、帰国後もなんらかの形で「核兵器のない世界」の実現のための活動にかかわっていくことを希望する若者を求めます。大学での学部や専攻等は問いませんが、日本語・英語での一定のコミュニケーション能力は必須です。また、国際会議の日程にあわせて海外渡航することが可能であることに加え、メンバー決定から出発までの間、事前の勉強会・ミーティングなどに原則参加可能であることが求められます。



2014年度募集チラシ

Q4. 誰がメンバーを選ぶの？

A4. 選考は2段階で行われます。1次審査は書類選考、2次審査は英語面接です。2次審査の選考委員は以下の通り(2013年度。肩書きは当時)。調 漸(核兵器廃絶長崎連絡協議会会長、長崎大学理事・副学長)、片峰 茂(長崎大学学長)、ブライアン・パークガフニ(長崎総合科学大学教授)、稲田俊明(長崎大学言語教育研究センター長)、梅林宏道(長崎大学核兵器廃絶研究センター長)。

Q5. 核問題を専門的に勉強していなくても大丈夫？

A5. 国際会議で何が議論されているかが理解でき、また、各国からの会議参加者との意見交換が十分に行えるよう、事前の学習を通じて、核問題の基礎から最新情勢までを幅広く学んでいきます。国内外の専門家を招いた講義やワークショップも開



かれます。また、長崎の被爆の実相やその背景についても学習します。

「2015年NPT再検討会議第3回準備委員会」って何？

1970年に発効した「核不拡散条約(NPT)」は、その名前の通り、核兵器保有国が増えることを防ぐために作られた条約です。加盟国は190か国(2003年に脱退表明した北朝鮮を含む)で、インド、パキスタン、イスラエルの3か国は加盟を拒否しています。

NPTでは米、ロ、英、仏、中の5か国を「核兵器国」、それ以外を「非核兵器国」と定め、前者には核軍縮に向けた交渉を誠意に行うことを求め、後者には核兵器の開発や取得を禁じています。また、条約加盟国には「原子力の平和利用」(原子力発電など)の権利が認められています。

条約で定められた義務がきちんと守られているかを検討するため、5年ごとに「再検討会議」が開かれます。今回は2015年です。再検討会議に向けては3回の準備委員会が行われます。ナガサキ・ユース代表団2期生が参加した今回の会議は、「2015年の再検討会議に向けた3回目の準備委員会」です。加盟国が一堂に会し、約2週間にわたって意見を交わします。

Q6. 現地の活動内容は？

A6. 大原則は「自分たちのプログラムは自分たちで創る」です。国際会議の場には、各国政府代表だけではなく世界各地からNGOや専門家、大学生などの若者も多数参加し、さまざまな会議やワークショップ等が同時並行で行われます。それらに参加したり、また、自分でイベントを企画することも可能です。各国の外交官との意見交換や、現地の大学や高校を訪問することもできます。参加者一人一人の興味や関心、目標に沿って、オリジナルの現地活動プランを立てていきます。SNSを通じてリアルタイムの情報発信も行います。

Q7. 帰国後の予定は？

A7. 長崎で報告会を行います。その後の活動は「ナガサキ・ユース代表団」メンバーとしての義務ではありませんが、一連の活動を通じて得た知識や経験、国内外の人々とのネットワークを活かして、何らかの形で核問題にかかわっていくことが奨励されます。長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)には、核問題に関心を持つ人々が集う「RECNA サポーター」という自主的な枠組みがあり、核問題での勉強会やイベントを日常的に行っています。大学生・高校生も多く参加しています。ここで活動していくことも一つの方法です。

